

# 琵琶湖・淀川水系を利用して運ばれた家形石棺



鴨稻荷山古墳の家形石棺(昭和61年の出土状況)

## 権力の象徴、家形石棺

古墳時代（3世紀半ば～7世紀頃）の日本列島各地には、数十万基ともいわれる古墳が造られます。鍵穴の形をした前方後円墳や素焼きで作られた人物埴輪など、特徴的な遺跡や出土品が多く見られるのが、この時代の特徴です。中でも、重量が数トンにもおよび巨石をくり抜いて造られる6世紀の家形石棺（※蓋石が屋根形の家形石棺）と呼ばれる埋葬施設の造営には、亀裂のない良質な石材の確保

保とその加工、船や修羅（※運搬用の木製大型ソリ）による運搬、古墳への設置など、多くの時間と労力が費やされています。

当時のヤマト王権が所在する畿内では、400基ほどの家形石棺が確認されていますが、その多くは、熊本県阿蘇ピンク石、奈良県二上山白石、兵庫県竜山石が用いられています。畿内を中心とする支配者がこぞって、この石材を取り入れていたことが判明しています。

## 水運利用で運ばれた家形石棺

高島市は、畿外に位置し、石材の産地からも遠く離れていますが、奈良県二上山から産出された白色凝灰岩製の刳抜式家形石棺を安置する「鴨稻荷山古墳」が存在します。

二上山からの移動距離は、100km以上におよぶことから、鴨稻荷山古墳の被葬者は、在地の有力者の枠を超えた、ヤマト王権に近い人物像が

想定されています。

日本書紀などには、「高島郡三尾別業」出生の継体大王は、淀川左岸の「樟葉宮」（現枚方市付近）で即位した後、木津川左岸の「筒城宮」（現京田辺市付近）、桂川右岸の「弟国宮」（現長岡京市付近）と、約20年間にわたって、淀川水系に「宮」を営んだことが記載されています。

## 琵琶湖・淀川水系のルート

二上山から切り出された鴨稻荷山古墳の家形石棺は、船を利用しながら、大和川、河内湖を経て淀



石棺が運ばれたルート図

図文化財課 ☎(25)8559

川に入り、巨椋池、宇治川・瀬田川を経由しながら、琵琶湖西岸を北上するルートで高島に運ばれたとされています。

当時の継体大王の支配基盤であった淀川水系と琵琶湖を利用しながら運ばれた鴨稻荷山古墳の家形石棺は、当時の高島がヤマト王権にとって、継体大王の出生地であると共に、畿内と北陸・日本海を結ぶ交通路、琵琶湖水運の掌握などで、重要な地であったことを、約1500年を経た今日に伝えています。

## 編集雑感

雨の日は掃除など、家での作業を進めるのに絶好の機会！年末の大掃除から半年、6月にも大掃除ができると次の年末が楽になりそうですね。

最近は、リサイクルショップなどを手軽に活用でき、ゴミとして捨ててしまう不用品は少なくなった気がします。それでも出てしまった不用品は捨てる前に、特集1を今一度確認してみてください！

リサイクルできるものが紛れていた、新たな工夫が見つかったりと、今よりごみ袋がスリムになるかもしれません☆(Y・H)



広報たかしま

令和2年

6

月号  
No.245

発行▼高島市  
TAKASHIMA  
滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

編集▼政策部企画広報課

☎0740(25)8000代  
http://www.city.takashima.lg.jp  
✉t-info@city.takashima.lg.jp



# マキノ地域の古代製鉄跡とその足跡

藤原仲麻呂と鉄穴

高島市北部のマキノ地域は、古代の鉄生産、製鉄の一大拠点であった足跡をたどれる地域です。奈良時代の『続日本紀』（天平宝字6（762）年2月甲戌の条）には、藤原仲麻呂（恵美押勝）が朝廷より近江国の浅井郡と高島郡に「鉄穴」を賜ったという記載が

あります。「鉄穴」とは、鉄を生産する製鉄所あるいは原料となる鉄鉱石を採取した場所を指すと考えられ、時の権力者であった藤原仲麻呂が、マキノ地域の鉄生産に関与していたと考えられています。

## 製鉄遺跡の学術調査

昭和43（1968）年に行われた、同志社大学考古学研究室によるマキノ地域の製鉄遺跡の調査では、北牧野において

8世紀代の製鉄炉跡（北牧野製鉄遺跡群）が発見され、製鉄の主な原材料に、鉄鉱石を使用していたことが判明しました。その他、北牧野では、製鉄炉の燃料として使用された木炭を生産した炭窯遺跡（クチナシ谷炭窯遺跡）などが確認されています。

## 古代鉄生産の一大拠点

マキノ地域は、鉄生産に必要な、良質な鉄鉱石、燃料となる材木（炭）、そして、湖上での運搬が可能などの諸条件がそろったことから、時の権力者が重要視するほどの古代鉄生産の一大拠点であった地域だと考えられています。

マキノ地域では、これらの製鉄遺跡群に先立つ、古墳時代後期（6世紀代）に多くの群集墳が分布する



鉄鉱石の分布  
鉄生産の原材料に用いる鉄鉱石は、地学的に古生層とその後に形成された花崗



正行院（海津）裏山の横穴

ことから、古代の先端技術である鉄生産をつかさどっていた技術集団との関連性が想定されています。

岡文化財課 ☎（25）8559

## 編集感

うだるような暑さはどこへやら、すっかり過ごしやすい季節になりました。

店頭にもサツマイモやクリなど、秋味のお菓子やスイーツが並び始めると、「ああ～秋が来たなあ～」とつい買い込んでしまいます。

秋味のお菓子をもって、ヒガンバナやコスモスが咲く市内をドライブしたり散歩したり…それだけでちょっとしたお出かけ気分になってオススメです (^ω^ ) ♪ (Y.H)



広報たかしま

令和2年

10

月号  
No.249

発行▼高島市

編集▼政策部企画広報課

〒242-0155 滋賀県高島市新旭町北畑5-5番地

☎ 0740 (25) 8000(代)  
http://www.city.takashima.lg.jp  
t:info@city.takashima.lg.jp



# 京都橘大学考古学研究室との協働による**拝戸古墳群**の測量

京都橘大学

考古学研究室の活動

高島市域には、田中王塚古墳、鴨稻荷山古墳をはじめ多くの古墳が存在することが知られています。

これらの古墳は、高島市出生とされる継体大王に関連が深い遺跡として、日本古代史において注目されてきました。このことに着目した京都橘大学考古学研究室は、平成30年より高島市をフィールドワークの対象として、市と協働で市内に所在する古墳や出土品の調査などに取り組み続けています。令和元年には、高島市拝戸に

所在する拝戸古墳群の中のひとつで、これまで存在が知られながらも実態がよく分かっていなかった古墳（第1支群第2号墳）の測量調査が行われました。

## 拝戸古墳群について

拝戸古墳群は、比良山地の北端にあたる嶽山山麓に所在します。古墳群は、昭和2（1927）年に刊行された『高島郡誌』には、「高島村大字上拝戸山林一町歩に亘りて古墳七箇現存す。」と記載され、その存在は早くから知られていました。昭和46（1971）年の滋賀県教育委員会の調査等に

より、水尾神社の裏山一帯と拝戸団地の背後、更にその山麓の平坦地の3つのエリア（第1・第2・第3支群と呼称）に、合計26基の古墳が存在することが確認されています。

これまでの調査により、第3支群10号墳は、葺石（古墳の表面を覆う石）を有する二段築成の帆立貝形古墳で、築造時期が5世紀代に遡ると考えられています。また、第2支群1号墳の横穴式石室は、その特徴から高島市域でも古い時期の横穴式石室と確認されています。拝戸古墳群の多くが横穴式石室であることから、石室を埋葬施設にする円墳が6世紀にかけて継続的に造られていたと考えられています。

## はじめての測量調査

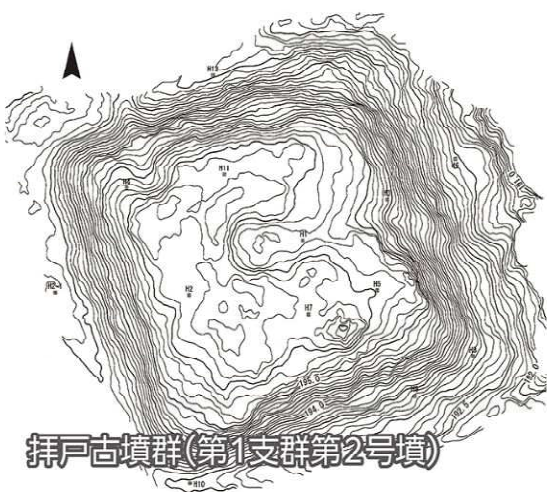
今回、京都橘大学によってこれまで詳細が不明であった第1支群において、はじめて測量調査が拝戸森林管理会の協力により実施されました。測量された第1支群第2号墳は、高島平野を眼下におさめ、琵琶湖を望めるなど、古墳の

立地として最高の場所にありま

す。調査により一辺約25〜30mを測る方墳で、木棺などの埋葬施設が想定されています。造られた時期などは更なる調査検討が必要となりますが、第2支群や第3支群の横穴式石室を中心とする拝戸古墳群において、木棺と想定される新たな資料を提示する調査となりました。

これからの京都橘大学考古学研究室との連携による、高島市域の古墳調査研究の進展がますます期待される調査事例です。

岡文化財課 ☎（25）85559





# 高島歴史民俗資料館 見て歩き

鴨稲荷山古墳  
かもいなりやまこふん



資料館から鴨稲荷山古墳-県道23号線を望む

高島歴史民俗資料館は高島市鴨2239番地に所在します。展示室には土中から出土した考古資料を中心に展示しています。特に、鴨稲荷山古墳と鴨遺跡は資料館の周辺に所在する古墳・遺跡ということで、多くの資料が展示されています。資料館から北へ150mの場所にある鴨稲荷山古墳は、明治35年(1902)8月9日に東を走る道が県道に昇格するための改

修工事の際、石棺が発見されました。その石棺の内側は朱が塗布され、金色に輝く副葬品が納められていました。副葬品の中から垂飾

付の金製耳飾りと金銅装の環頭大刀の柄頭などが取り出され、現在

東京国立博物館に収蔵されています。大正11年(1922)から12年

にかけて現京都大学が調査に訪れて、その時出土した副葬品類は、

京都大学総合博物館に収蔵されています。また、数点の副葬品は調

査地の鴨地域に伝えられ、現在資料館に展示しています。その中

で、金銅製冠・飾履・みずら飾(髪飾り)の3点セットのいずれかの

破片と考えられる小遺物を展示しています。

鴨遺跡

鴨遺跡では、昭和54年(1979)に施工された鴨区のは場整備事業

に伴う埋蔵文化財発掘調査によつて、平安時代前期の緑釉陶器・灰

釉陶器・土師器・木簡・木沓・木製品等が大量に出土しました。遺跡

の性格については高島郡衙(地方役所)説が有力です。現在、遺跡は資料館から南約400m離れた水田下に保存されています。

他の展示品で注目されるのは、南市在住の方から寄贈されたアメリカ式石鏃(長さ3.6cm)です。アメリカ先住民の使っていた鏃に形がよく似ていることからこのように命名されています。打製の石鏃の基部両端付近にえぐりが入

## 南市で発見された石鏃

られてるのが特徴です。日本列島での所属時期は今から約2千年

前の弥生時代と推定されます。石材はチャートで打製石器に分類

されます。最近、同じ方からもう1点石鏃と考えられる遺物が寄贈

されました。図のとおり、小型品で茎を作り出しているように見受け

られます。形は凸基型をしていま

すが稜線が明瞭でないことから、磨製石鏃凸基型の製作途上とも考

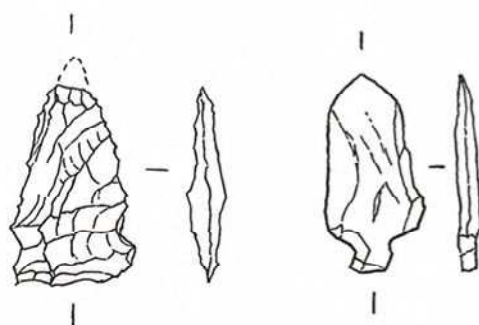
えられ、擬石器(長さ3.4cm)と呼んでよいものと考えます。小さ

い遺物ですが、古代ロマンを感じる逸品です。

南市表面採集石器図

左：アメリカ式石鏃 右：擬石器

高島歴史民俗資料館 (36)1553



南市表面採集石器図

左：アメリカ式石鏃 右：擬石器



# マキノ町蛭口宮遺跡出土の「和同開珎」ひるぐちみや

## 発見された25枚の貨幣

マキノ町蛭口から出土したと伝わる和同開珎とそれを納めた土器が、滋賀県立琵琶湖文化館に収蔵されています。土器は、須恵器と呼ばれる硬質の土器で、「杯」と呼ばれています。この椀状の器には蓋が付き、中には「和同開珎」と呼ばれる貨幣が25枚納められていました。詳しい出土状況などは不明ですが、昭和32(1957)年より以前に、地元の住民によって発見されたものと伝わっています。

## 和同開珎とは？

和同開珎は、和銅元(708)年に、日本で初めて作られた流通貨幣と言われ、当時、中国の唐で広く流通していた貨幣の「開元通宝」をモデルにつくられたものです。日本最初の流通貨幣と言われる一方、当時の日本では、米や布をはじめとする物々交換が主流で、税なども物納であったことから、貨幣としてはほとんど流通しなかったものでした。このことから当時の人々は、宝物として祭祀や呪術などに、この和同開珎を用いることが多かったようです。

## 文字が書かれた土器

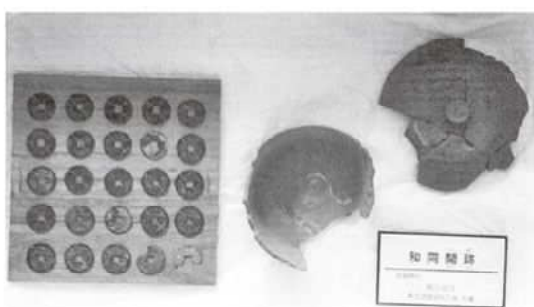
和同開珎が納められていた須恵器は、その特徴などから8世紀前半頃に造られたものです。和同開珎がつくられて間もない頃に、この須恵器を容器として和同開珎が埋納されていたようで、椀の内部には貨幣4枚分の青錆の痕跡が今でも残っています。須恵器の裏底には、上級の役所から下級の役所に対して命令を下す際に用いられる「符」の文字が墨書されていることから、この和同開珎を入れた須恵器は、公的な命令による地鎮などを目的に、埋納が行われた可能性が考えられています。

## 蛭口宮遺跡

和同開珎が出土した遺跡の多くは、古代に整備された都と地方を結ぶ官道に沿って分布し、駅家(道に沿って30里毎に整備された施設)や官衙(古代の役所)とよばれる遺跡から出土する傾向が明らかになっています。



蛭口宮遺跡の位置図



25枚の和同開珎と出土した土器

平安時代にまとめられた『延喜式』と呼ばれる史料には、古代北陸道は、滋賀郡の「穴多」、「和邇」、高島郡の「三尾」、「鞆結」の4つの駅を経て、越前国に至るとされています。

蛭口宮遺跡は、近江国高島郡鞆結郷に位置し、付近のマキノ町石庭には「鞆結」の小字名などが残ることなどから、古代北陸道に伴う「鞆結駅」の存在が想定されています。25枚の和同開珎は、古代国家の貨幣政策と密接に関連した地域の現象であったことを物語る資料といえます。



# 赤色顔料とL字状石杵

## 赤色の顔料

本年6月に九州の吉野ケ里遺跡（佐賀県）で石棺内部の発掘調査が行われ、有力者の石棺に見られる赤色顔料が広い範囲で確認され、大きな話題になりました。古来から用いられてきた赤色顔料は、鉄や水銀を主成分にしたもので、世界中で古くから顔料や防腐剤などとして用いられてきました。

日本では縄文時代以降の土器や木製品に塗られる他、人を墓に埋葬する際に使われるなど、神聖な色として使用されることが多く、その痕跡は市内の遺跡などでも多く認められます。

## 市内の遺跡

市内では、打下古墳（勝野）の石棺内部が赤色顔料で覆われていた他、鴨稻荷山古墳（鴨）の家形石棺、二子塚古墳（安井川）の須恵器、田中36号墳（田中）の横穴式石室などで赤色顔料が使用されています。

このほか、赤色顔料を精製した際に使用されたL字状石杵<sup>いしきね</sup>と呼ばれる特徴的な石杵（側面観がL字を呈する石杵）が出土しています。

## 赤色顔料の精製

弥生時代の終わり頃から赤色顔料の材料として辰砂<sup>しんじや</sup>と呼ばれる鉱物が多く使われるようになります。赤色顔料は、辰砂を含む原石を割って赤色の砂石を取り出し、自然石でたたきながらすり潰し、水と混ぜながら分離し選り分けします。さらに石杵で細かく粉末化し、

赤色顔料のひとつである朱を精製していたとされています。

日本全国では弥生時代を中心とする遺跡から、辰砂から朱への粉末化、精製の際に使用されたL字状石杵が30点程出土し、このうち市内では鴨稻荷山古墳周辺と熊野本遺跡の2か所で出土しています。

## 二つのL字状石杵

鴨稻荷山古墳の周辺で採取されたと伝わる石杵は、長さ19・3cm、幅6・4cm、重さ2・0kgを測ります。厚く重量感があり、赤色顔料

の粉末化に実用していた道具で、磨面には使用痕と赤色顔料の付着が現在も認められます。

熊野本遺跡では、弥生時代後期末の墳丘墓が検出され、木棺跡の周辺から水銀朱とされる赤色顔料と水銀朱を加工したと考えられる長さ16・5cm、幅12・0cm、重さ0・78kgを測るL字状石杵が出土しています。

土器や古墳などで赤色顔料が使用される一方で、その精製が行われていたことを示す考古資料として全国的にも注目される出土品です。

岡文化財課 25(25)85559



鴨稻荷古墳周辺出土の石杵



熊野本遺跡出土の石杵

## 高島の古代遺跡 その1

市内は、山あり川あり里あり湖ありの、自然豊かな風土です。この地形は人の定住につながり、市内にはそのことを示す400か所近い遺跡が残されています。今までに調査された低地遺跡から3つの遺跡を紹介します。

▼南市東遺跡  
みなみいちひがし

主に弥生・古墳時代の集落跡  
(安曇川町末広他所在)

昭和49年7月20日に開通した国鉄湖西線安曇川駅周辺の開発に伴う発掘調査で、今から約2000年前の弥生時代中期を中心とした



南市東遺跡出土初期須恵器

集落遺跡と、1500年前の古墳

時代中期の集落遺跡が重複する中で、遺物・遺構が検出されました。今までに、30数回の調査成果の積み上げがあります。その中で、駅東南調査区において、推定弥生時代と考える遺構面に、井戸跡と掘立柱倉庫に附属する、丸太梯子はしごが検出されました。これは、ムラの中心に近いことを意味していると考えられます。周辺には、八反田遺跡・下五反田遺跡が所在し、関連遺跡が広がりを見せています。

## ▼鴨遺跡

平安時代前期の官衙かんが  
(高島町鴨所在)

鴨区耕地改良事業(ほ場整備)に伴う埋蔵文化財発掘調査が昭和50年代に実施されました。特に昭和



鴨遺跡出土「朝」銘銅印

54年度の調査では、平安時代前期(貞観15年(873))と書かれた木簡出土の地方官衙(役所)と考えられる遺構・遺物が大量に検出されました。特に、緑釉陶器・灰釉陶器等の高級陶器が完形品の状態で出土しました。また、銅印「朝」をはじめ木製品の沓・小さな仏像なども出土しました。まさに、平安時代の地方役所に迷い込んだ思いがするような遺構・遺物群です。遺跡は現在、水田として活用されて保護されています。

▼天神畑・上御殿遺跡群  
てんじんばた かみごてん

弥生・室町時代

(安曇川三尾里他所在)

安曇川町の南に位置する青井川の改修工事に先立って、平成20年代に埋蔵文化財発掘調査が実施されて大きな成果が得られました。日本列島に出土例がない、双環柄頭短剣鑄造の石製鏝型一対(弥生時代中期～後期)を始め、大型の土壁造り建物と考えられる遺構(古墳時代前期)など大陸や朝鮮半島にルーツを持つ遺物や遺構群が

発見されています。まさに渡来人の足跡を感じる遺跡群です。安曇川以南の遺跡は、このように保存状態も良好で、今後多くの成果が期待できるでしょう。



三尾里から上御殿遺跡を望む

文化財課 ☎(25)8559

編集  
雑感

今年の4月から企画広報課に異動してきた(M)です。この部署に配属されたことにより、初めて毎月読んでいる広報誌がどのように作成されているのを知りました。今まで使用してこなかったシステム等を使うことになり、悪戦苦闘していますが、色々なことを少しずつ覚えながら頑張っていきたいと思っています。皆さま今年1年間よろしくお願ひいたします。(M)



## 県下最大級の高地性集落

交流・物流の拠点  
「熊野本遺跡」

高島市は古来、陸路、水路の交通の要衝として栄えてきました。特に西日本を中心に情報が行き交う弥生時代中期後半(約2100年前)には、高島市においても活発に他地域と交流があったことがうかがえます。



墳丘墓全景

その頃、新旭町の饗庭野台地に大規模な拠点集落が出現しました。これが熊野本遺跡です。高台に位置するこの集落は、高地性集落といわれ、展望のよい場所にあります。滋賀県内の高地性集落の中でも大規模かつ長期間にわたって営まれていたことがわかっています。

## 発掘された高地性集落

熊野本遺跡では、今から20年以上前の開発工事に伴う発掘調査によって、約30棟の住居跡やムラの有力者の大型住居跡、日本海地域にルーツを持つ建物の跡が発見されました。また、出土した土器からは弥生時代中期から古墳時代が始まるまでの約300年間継続する集落であることが分かりました。出土品の中には、野洲川流域や日本海沿岸地域・大阪湾沿岸地域・瀬戸内沿岸地域などから運ばれてきたと考えられる土器が含まれていて、他地域と活発に交流していることが分かります。

たようすがうかがえます。

特に、熊野本遺跡では弥生時代当時に貴重であった鉄器が30点以上出土し、近畿地方の他遺跡と比べ豊富な内容を示しています。鉄製品に加え、その製作過程で生じる鉄片も見つかっていて、鉄器の加工・製作が行われていたことが推定されています。

## 墳丘墓と古墳群

遺跡から琵琶湖を見下ろすことができる見晴らしのいい場所には、弥生時代後期に墳丘墓が築かれるようになっています。ここでは、石柙や青いガラス小玉が出土していることや日本海地域に多い墳丘墓に石を貼る特徴から、日本海地域の墓制とのかかわりがうかがえます。古墳時代に入ると集落の北側ではこの墳丘墓に続くように古墳が築かれ、古墳時代中期まで存続します。

このように熊野本古墳群を含む熊野本遺跡群は弥生時代の地域間交流だけでなく、湖西地域の古墳時代を解明するうえでも重要な遺跡です。



ガラス小玉(741個)

現地には熊野本遺跡と古墳群の案内板が設置されています。古代に人々が見た景色を約2000年の時を越えて望んでみてはいかがでしょうか。

文化財課 (25) 8559

編集  
雑感

今回の表紙は、いよいよ来年開催される国スポ・障スポのPRキャラクター集合のようす。インスタで高島市の写真を発信している「たかP」もついに立体化し、感慨深いです。これからいろんなところに出ていって、大会を盛り上げてほしいですね♪今年はいよいよリハーサル大会として、市内で4競技の大会が開催されます。この機会にトップレベルの試合を見てみませんか？(S)



広報たかしま

令和6年

8

月号  
No.295発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課  
〒500-1602 滋賀県高島市新旭町北畑5-10番地☎0740(25)8000(代)  
🌐<https://www.city.takashima.lg.jp>  
✉[t-info@city.takashima.lg.jp](mailto:t-info@city.takashima.lg.jp)



## 妙見山古墳群からみる古代のアクセサリー

皆さんは普段アクセサリーを身に付けますか？今では、ピアスやイヤリング、ネックレス、髪飾りなど、多くの種類のアクセサリーを簡単に手に入れることができます。

では大昔のアクセサリーはどうだったのでしょうか。今回は妙見山古墳群から発見されたアクセサリーを紹介・観察していききたいと思います。

## 妙見山古墳群

妙見山古墳群は今津町福岡字日枝・日置前字平林地先の丘陵(妙見山丘陵)に位置し、現在までに60基以上の古墳が確認されています。過去の発掘調査によって、古墳時代のほぼ全期間を通して円形形の古墳(円墳)や四角形の古墳(方墳)が作られていたことが分かっています。

## 発見されたアクセサリー

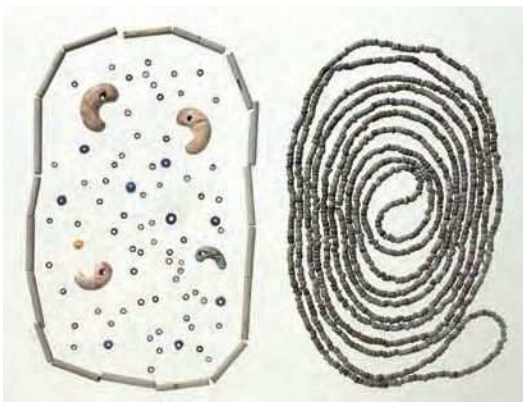
妙見山古墳群のなかでもC支群40号墳という古墳からは4基の主体部(遺体を安置する場所)が検出され、

第2主体部からはブレスレット(釧)

1点や勾玉4点・管玉19点・小玉約1500点・ガラス製小玉10点・メノウ製小玉1点が発見されました。では発見されたアクセサリーについて少し詳しく観察していこうと思います。

## 勾玉

40号墳から発見されている4点の勾玉のうち少なくとも2点はヒスイ製のものであることが分かっています。糸を通すための穴をよく観察し



妙見山古墳群出土のネックレス

てみると両側面で穴の大きさが違うことが分かります。これは穴をあける方向が一方であった証拠です。ダイヤモンドが硬度(硬さ)10に対してヒスイは6と宝石の中でも硬く、当時の穴をあける技術の高さうかがえます。

## ブレスレット(釧)

ブレスレット(釧)は鉄製の釧の外側に青銅製の釧が巻きついた状態で出土しました。鉄製の釧は直径7cm、幅1cm、厚さ1mmで、その外側に銅



妙見山古墳群出土のブレスレット

とずを混ぜた青銅製の厚さ3mmの釧が付着しています。このサイズのブレスレットをする人物は女性もしくは子どもだったのでしょうか。

妙見山古墳群から発見されたアクセサリーを観察してみました。皆さんも博物館などにお立ち寄りの際には古代のアクセサリーを注意深く観察し、想像を膨らませてはいかがでしょうか。

文化財課 (25) 8559

あけましておめでとうございます。令和7年もよろしくお祈いします。さて、令和7年1月1日は、高島市制施行からちょうど20年を迎える日です。10月20日の記念式典では、高島市民憲章が制定されました。この市民憲章に基づき、「住みたい、住み続けたいまち」の実現を一人ひとりが実践し、そして、今後も30年、40年…と高島市がさらなる発展を遂げるように一緒にがんばりましょう！(K)



広報たかしま

令和7年

1

月号  
No.300発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課  
〒501-8602 滋賀県高島市新旭町北畑5丁目番地☎0740(25)8000(代)  
https://www.city.takashima.lg.jp  
t:info@city.takashima.lg.jp